

下関市こども発達センター広報誌

第32号

発行所
 下関市こども発達センター
 〒751-0827
 下関市幡生本町26-12
 TEL 083(233)9850
 FAX 083(233)9851

わんぱく つうしん



「ごあいさつ」

下関市こども発達センター

センター長 後藤 吉秀

今日も下関市こども発達センターは子どもさんの明るい笑顔と元気な声であふれています。しかし、この1年間は当センターに関わる人々だけでなく、世界中の人々が戸惑いと不安の中で落ち着かない日々を過ごさざるを得ませんでした。その原因となった新型コロナウイルス感染症のため、当センターの子どもさん、とりわけ「はたぶ園」の子どもさんにとりまして運動会やバス遠足など様々な楽しみにしておられたはずの行事を、感染予防のため中止とさせていただきます。こうした行事の一つ一つが子どもさんたちの成長のための有意義な機会であり、これらを中止せざるを得なかったことにつきまして保護者の皆様も複雑な想いを持たれたことと存じますが、私たちの対応にご理解を賜り深く感謝いたします。

まだまだこの感染症の収束は見通しが立ちませんが、冒頭に述べさせていただいた通り、これまでと変わらず子どもさんの明るい笑顔と元気な声が絶えぬよう、職員一同、精一杯子どもさんの支援に携わりたいと考えております。

また拡張工事を行っている下関市こども発達センター診療所も今年度内に整備が済み、より充実した診療体制が整う予定です。

子どもさんたちの元気な笑顔は未来への希望です。「令和」の時代が希望の時代となることを願い、そして私たちの支援がその一助となるよう、これからも職員一同努力してまいります。皆様にはご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

ペアレントメンター

こんにちは。ペアレントメンターってご存知でしょうか？メンターとは、「信頼できる相談相手」という意味です。

発達障がい、自閉症の子どもを育てている親が、山口県メンター養成講座を受講し務めています。

育児体験を活かし、悩みを聞いたり、経験談をお話したり、情報提供を行っています。

現在活動は、市民活動センターにて毎月第二金曜日に相談会を開催しています。(センターホームページ掲載)

ペアレントメンターは、専門家ではありませんが、同じ親としての視点を大切にしています。誰かに話すことや経験談を聞くことで、我が子のことをほんの少しでも理解できたり、気持ちに楽になったりすることがあると思います。

少しでもお子さんと楽しいと思える時間が持てたらすてきですね。そんなお手伝いが出来たらメンターはうれしいなあと思っています。がんばっている保護者をメンターができる形で応援していきたいと思っています。



下関市こども発達センター 診療所

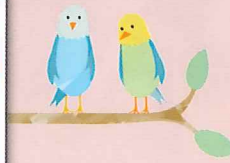
診療所が増築されました。

この度、診療所が増築されました。今まで手狭であった、玄関から待合室のスペースを広くすることが目的です。ちょうど、新型コロナウイルス感染症対策の必要性もあり、ソーシャルディスタンスを取ることができるようになりました。

昨年の9月から工事が始まり、聴覚過敏のあるお子さんにとっては落ち着かない診察環境であり、いろいろとご迷惑をおかけしました。子ども達の反応もさまざまで、「ここが、新しいところにつながるの?」「どんなふう合体するの?」「新しいところって、こんな向き?」とジェスチャーを交えて、わくわく感を伝えてくれる子もいました。一方で、新しいことが苦手なお子さんは、「次、来る時は新しいところだね」と話すと、「いやだ、新しいとこいや!」と不安げです。視覚支援のために、事前に写真を撮りに来られるよう、ご家族にはお勧めしています(写真を数枚掲載しますので、ご利用ください)。

2月から新診療所で診察を開始しました。心機一転、皆様が安心して受診できるようスタッフ一同努力してまいります。お気付きの点がありましたら、お声掛けいただけると幸いです。増築工事の関係者の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

診療所長 大賀 由紀



下関市こども発達センター 令和2年度をふりかえって



うさぎ組

年少さん4名、年中さん4名、年長さん1名の計9名（男の子5名、女の子4名）のクラスです。そんなうさぎ組はみんなお友だちが大好きで、1人が楽しそうに遊んでいると自然に人が集まり、1冊の大型絵本を一緒に眺めたり、にぎやかなお店屋さんごっこが始まったりします！そして、お友だち同士の関わりが増えた分、トラブルもありますが、思いやりや優しさの気持ちも育ってきました。それから、子ども達はホールで身体を動かすことやセンター周辺のお散歩も楽しみにしています。子ども達の方からスケジュールを確認し、予定に組み込まれていると大喜びです。



これからも集団生活の中で、楽しい経験をたくさん積んでいき、子ども達の自信につながっていくと良いなと思います。



きりん組

きりんぐみは、男の子7名女の子3名のクラスです。10名いてもおもちゃを共有して仲良く遊んでいます。男の子は元気がよく追いかけてこやブランコが大好き。ブロックや粘土での創作の技術も素晴らしいものがあります。女の子は歌や踊りが大好き。おしゃれ女子がいつも鏡でファッションショー。そしてきりん組の一番の特徴は給食をモリモリ食べ、園の中でのかわりチャンピオンです。自分で出来る事や楽しみをいっぱい増やし、充実した日々を過ごしてほしいと思っています。



こあら組

年長児6名、年中児4名の計10名（男の子7名、女の子3名）のパワフルなクラスです。こあら組はいつでも元気いっぱい！！笑顔いっぱい！！毎日色々な活動に楽しんで参加しています。園庭では砂場で友だちとやりとりやごっこ遊びを楽しんだり、三輪車に友だちを乗せて連なるとは大はしゃぎ！！また、部屋の中では、粘土やスライムで手を沢山使って感触を楽しんだり、玩具などを使用してままごと遊びなども大好きです。お友達との関わりも沢山増えていて、友だちのお世話をしてくれたり、友だちが泣いていると「大丈夫？」と心配してくれる姿も見られるようになりました。



ぞう組

ぞう組は年長さん6名、年中さん1名、年少さん2名、男の子8名、女の子1名の計9名のクラスです。おえかき、工作、プラレール、ブロックあそびが大好きです。外あそびでは、三輪車に乗り5～6人で連なって走ったり、砂場でトンネルを作って、車を走らせたりして楽しんでいます。夏にはどろんこ遊びや水あそびをして、みんなで泥だらけになって楽しみました。冬はオペレッタ「くれよんのくろくん」をして、みんななりきって歌を歌ったり、踊ったりを楽しみました。この1年で心も体も大きく成長したぞう組さん、これからも楽しいこと、夢中になれることをたくさん見つけて大きくはばたいてくださいね！



発達支援室

昨年度に引き続き、臨床心理士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の各専門職が複数体制で、当センターと児童発達支援どーナつ各々の場所において、個別訓練や療育への参加、関係機関との連携等を行ってきました。

今年度は、コロナ禍の中で、日々の活動や行事、研修等に、影響を受けざるを得ませんでした。少しずつ感染症対策を考えながら、職員も子どもたちも、制約された中で、規模を小さくする、形式を変更するなど、対応してきました。子ども達は、例年と変わらずに新しい環境から徐々に力を蓄え、成長していき、その姿にほっとしました。今後また保護者の方々と共に、よりよい支援が出来るように努めていきたいと思っています。



キッズハウス

4歳未満の親子を対象に毎週木曜日の午前中に活動を実施しています。年齢は2歳代から3歳代のお子さんが多く在籍されています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で6月まで活動ができない状況が続きました。再開後は人数を最小限に制限し、保護者の方にはマスク着用、手指の消毒を徹底して頂き、活動を進めているところです。職員もマスクを着用して活動させていただいているので、口唇の動きが分からず声も通りにくいので、子どもたちには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。一日も早いコロナの収束を祈るばかりです。今までの活動ができるようになり、元気な声が響くキッズハウスに戻って欲しいと強く思います。



下関市こども発達センター どーナつ(児童発達支援)

どーナつは2歳から6歳の幼稚園、保育園、こども園、他事業所に通っている子どもさんが週1回～2回（他事業所利用または在宅児の未満児、年少児）通ってきます。小集団の中での楽しい経験が子ども達の心を豊かにし世界が広がればと思日々努めています。

集団遊びの中の転がしドッチボールはルールを守ってゲームをする中で、お友達を応援したり応援されたり、「一緒に遊んで楽しい」と感じられる時間です。これからも色々な活動（あそび）を通して子どもさんたちの成長を支援していきたいと思っています。



下関市こども発達センター豊浦

下関市こども発達センター豊浦には体を動かす遊びが好きな子どもが多く在籍しています。運動遊びをするには狭いスペースですが、しっかりと体を動かせるように設定を工夫して活動を行っています。時には子どもたちと一緒に設定を考えながら楽しい時間を過ごしています。

